

# ビタミン欠乏症における誘発筋電図の解析に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成30年8月27日～平成33年3月31日

〔研究課題〕 ビタミン欠乏症における誘発電位に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 ビタミン欠乏症はしびれ、歩行障害をひきおこす神経障害の原因のひとつですが、通常の肘から手首、また膝から足首の限られた神経伝導検査だけでは、病態をとらえることができない場合があります。脊髄までの体幹に近い部分の末梢神経、脊髄内の中枢神経にも病変が生ずると報告されていますが、生理学的にまだしっかりとした検査法が確立されていません。我々がこれまで検査法を開発、改良してきた体性感覚誘発電位は、画像診断でもつかまらない神経障害について、どの場所に伝達障害が生じているか局所診断に有用であることを証明してきました。本研究では、ビタミン欠乏症に行われている神経生理検査について客観的な解析手法を確立した上で、障害部位を調べることを目的とします。

〔研究意義〕 生検や造影剤の投与が必要ない侵襲が少ない体性感覚誘発電位と神経伝導検査は昔からおこなわれてきた検査ですが、その臨床応用は十分とはいえなく、詳細に障害を検出でき、その後に適切な治療・予後予測を行えるとすれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 平成20年以降から平成30年3月31日までに当科と三井記念病院神経内科で神経伝導検査、体性感覚誘発電位検査を施行した患者の保存されているデータを読み出して解析し、解析方法の検討開発と、神経伝導検査、体性感覚優位の感度の比較を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、倫理委員会事務局に提出します。帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）による保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・講師 畑中裕己、臨床助手 神林 隆道、助教 北國 圭一、  
助教 宮地 洋輔、臨床助手 神谷 久雄

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) [内線 7068]